

東日本大震災
あの日を未来につなぐ、宮城のいま。

2019.6.11

Vol.

38

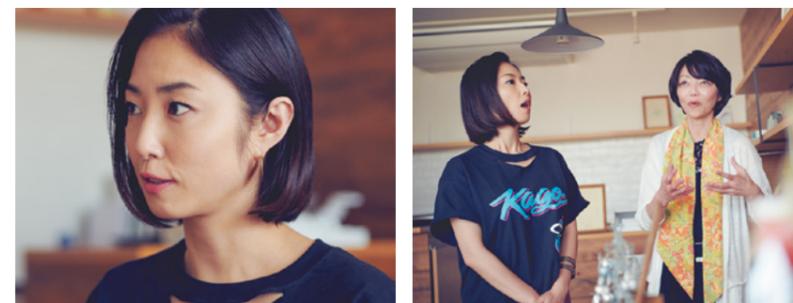
June, 2019

ナウイズ
毎月11日発行

NOW IS.

MEGUMI
in 岩沼・亘理・山元

人生長くないから。
動いて、出会って！



NOW IS. 対談

Talk Session

in 巨理 WATARI

感謝を包む

「FUGURO」がつないだ
たくさんのお
出会いと記憶。

モダンに生まれ変わった
埋もれかけた文化。

MEGUMIさん(以下MEGUMI) |
引地さんがWATALISを始めた
きっかけは何ですか？

引地恵さん(以下引地) | 震災
後、地元の人に「巨理に暮らす人
達は、贈り物をする時に着物の
残布で仕立てた袋にお米を入れ
て渡していたんだよ」という話を
聞いたんです。その巾着袋を「ふ
ぐる」と呼んでいたって。この「ふ
ぐる」を、支援してくれた皆さま
に渡したいなと思ったのがきっ

かけでした。最初はポランティ
アでやっていましたが、取り組み
が大きくなってきたので会社を
立ち上げました。巾着袋や雑貨
をつくって販売しています。

MEGUMI | かわいい！

引地 | 古い着物を使っているん
ですよ。昔はもっと素朴なつく
りだったんですが、飾りをつけた
りして、「FUGURO」として現代
風にアレンジしました。

MEGUMI | これ、本物の着物な
んですか。手作り？

引地 | はい。地元の人が全部手
作業でつくっています。今は、40

60代の女性10人くらいが製
作に携わっています。

MEGUMI | これ、本当にかわい
い。震災は悲しい出来事だった
けど、こういう文化を知るきっか
けになって、しかもそれが新しく
生まれ変わったというのは、素晴
らしいことですね。

引地 | ありがとうございます。最
近では、スイスの時計ブランド
「ジラル・ベル」や「コロポさせ
て」いただいたり、D2O Conferen
ce Tokyo 2019や宮城県知事が
海外に表敬訪問した際のおみや
げに採用いただいたり、身に余る

ご縁もいただいています。

ゼロからスタートする
難しさと面白さ。

MEGUMI | すごい！続けるため
にはチャレンジし続けないと、で
すもんね。私も今、いろいろな方
とコラボするお仕事をしていま
す。作り手の方と一緒に自分の
頭の中を具現化するのとは、どっ
ても面白いですよ。新しいこと
を始めるときって、「本当に大丈
夫なの？」って言われることが多
いんだけど、実際かたちになる
と、すごく喜んでもらえる。

引地 | そんなが、分かってくれ
る人がいるから、この人のために
頑張らないかな、と思うんです。

引地 | そうなんです。モノ
が出来上がってくると、応援して
くれる人も増えてくる。最初は
あまりに理解されなくて、自分が
間違っているのかな、って思っ
ちゃうんですが(笑)。

MEGUMI | そうですよ(笑)。
でも、形になってないものの不安
は、みんなある。しかも、女性が
ってなると、みんな得体の知れな
いものを見るような顔になる
(笑)。

引地 | そんなが、分かってくれ
る人がいるから、この人のために
頑張らないかな、と思うんです。

アクションを起こすのは勇気が
いるけど、実際に動くこと、縁が
生まれるんですよ。震災前は、
「私、こういう人とお話でき
ない」って無意識にセーブしてい
たんですが、実際に行動したら、
仲良くなれるんです。人の素敵
さに触れることができた。震災
で、健康で元気なことって当たり
前じゃないと気が付きました。だ
からこそ、大変な時に応援して
くれた人や、新しく出会った人た
ちを大切にしようと思っただけ
です。

MEGUMI | すごく分かる。
引地 | でも、こういうことって、

時間がたつと忘れちゃうから
WATALISを続けることで忘れな
いでいたいと思うんです。作る
側も買ってくれる人も。

MEGUMI | そうですね。人生長
くないから、自分を信じて、思い
ついたことを行動するって大事
なんじゃないかな。みんな震災
で人生って何かを考えたと思っ
たんです。動いて、出会って、小
さな豊かさを積み上げることが、豊
かな人生につながるんじゃない
かな。とっても深い話が出てき
て、いい時間でした！ありがとうございます！

Hikichi Megumi
引地恵

ひきち
めぐみ

PROFILE

株式会社 WATALIS 代表取締役。宮城県巨理町生まれ。震災前は、巨理町役場に勤務。2013年一般社団法人 WATALIS(ワタリス)を設立し、2015年株式会社。「FUGURO」はウェブサイトや百貨店でも販売中。

Megumi

MEGUMI

めぐみ

PROFILE

タレント、女優。岡山県出身。10歳の男の子の母でもある。東日本大震災後は、知人の美容会社とともに女性に化粧品を届ける支援を行った。その経験をもとに、西日本豪雨で被災した地元にも継続して支援を行っている。

応援してくれた人に
感謝して続けたい。





活躍する応援職員

SUPPORT POWER



「2018年は大阪北部地震や西日本豪雨、北海道胆振東部地震と各地で豪雨や地震などの自然災害が数多く発生しました。被災地の力になりたいと強く思うようになって、派遣に志願したんです。そう話す藤村さんは、2019年4月に神奈川県横浜市から山元町にやってきたばかりです。

「今は目の前の仕事で精一杯ですが、しっかりと学んで少しでも復興の一助になればいいです。また、山元町を全部巡りたいです。夏のひまわり畑も楽しみです、山元町が第二の故郷になったらいいなと思っています。」



藤村さんが休日に登った山元町と角田市にまたがる「深山」の頂上。

「2018年は大阪北部地震や西日本豪雨、北海道胆振東部地震と各地で豪雨や地震などの自然災害が数多く発生しました。被災地の力になりたいと強く思うようになって、派遣に志願したんです。そう話す藤村さんは、2019年4月に神奈川県横浜市から山元町にやってきたばかりです。

「今は目の前の仕事で精一杯ですが、しっかりと学んで少しでも復興の一助になればいいです。また、山元町を全部巡りたいです。夏のひまわり畑も楽しみです、山元町が第二の故郷になったらいいなと思っています。」

「2018年は大阪北部地震や西日本豪雨、北海道胆振東部地震と各地で豪雨や地震などの自然災害が数多く発生しました。被災地の力になりたいと強く思うようになって、派遣に志願したんです。そう話す藤村さんは、2019年4月に神奈川県横浜市から山元町にやってきたばかりです。

「今は目の前の仕事で精一杯ですが、しっかりと学んで少しでも復興の一助になればいいです。また、山元町を全部巡りたいです。夏のひまわり畑も楽しみです、山元町が第二の故郷になったらいいなと思っています。」

想いと向き合い 寄り添えたら

山元町
地域包括支援センター
高齢者相談支援班
さきの
藤村 咲野さん
神奈川県横浜市より
山元町に派遣

AREA information



2019わたりふるさと夏まつり
 巨理の夏を彩る「わたりふるさと夏まつり」。威勢の良い「成実囃子」と勇壮な山車を連ねる「山車パレード」は圧巻。また、会場では追悼供養行事(灯籠流し)が行われ、フィナーレに、約4,000発の花火が夜空に色とりどりの花を咲かせる。

- 日時:2019年8月15日(木)
- 会場:鳥の海公園周辺
- 住所:巨理町荒浜字隈崎9-2
- 駐車場:3,000台(無料)
- 交通:常磐自動車道路鳥の海スマートICより車で約5分
- 仙台東部道路巨理ICより車で約15分
- JR常磐線巨理駅より車で約20分
- ☎0223-34-0513(巨理町観光協会)

岩沼駅前マルシェ
 地元農家による新鮮野菜の産直をはじめ、カレーやパン、コーヒーなどの飲食店も多数出店します。美味しいものを食べながら、岩沼でゆったりとした時間を過ごしてみたい方はいかがですか。

- 日時:2019年7月27日(土)
- 10:00~15:00
- 会場:岩沼駅前広場(JR岩沼駅東口)
- ☎0223-22-1111(内線323)
- (岩沼市商工観光課)



MEGUMIさんが出会った ハツラツと輝く人々。

人のために、楽しんで。地元で革命を起こす。

「引地さんについて、WATALISを始めたのは革命だったと思うんです。被害が大きかったまちで、転機を自分でつくった勇氣、リスベクトします。対談を終え、

移動の車内でMEGUMIさんは話します。「震災の後、私が化粧品と物資を車に積んで被災地に行ったとき、やっぱり怖かったし、これでいいのか、と思うこともありました。でも、自分の直感を信じて行ったからこそ、感じられたことや出会えた人がいた。お

ばあちゃんが化粧品を使って「あら！きれいになったこと！」って笑っているのを見られたのは、大きかったな。今、芸能界以外の方とつながってお仕事を始められた背景にも、あの時感じたことがあるかもしれません。」

東日本大震災後、一心発起し



「山元夢ファーム」の福井さんと。



「WATALIS」のカフェ&ギャラリー。「MEGUMIさんとは名前が同じ「めぐみ」。親近感を感じます」と引地さん。

立ち上がった人が、被災地には多くいます。WATALISの引地さんは「意識を変えざるを得ない状況だった」と話しますが、そんな状況だからこそ、本当に未来に伝えたいすばらしいつながりやモノ、場が生まれました。

次に向かった「山元夢ファーム」もそんな場のひとつ。栃木県で福祉施設を運営している福井福治さんが、ボランティアで山元町を訪れたのをきっかけに始めた、手作りの牧場です。「かわいー！」と柵に歩みよるMEGUMIさん。ヒツジの赤ちゃんがスクリーンをひっぱります。「今年4頭生まれたの。最初は3頭から始まったんですが、今は10頭になりました。震災後の沿岸部は子どもたちが遊んだりする場が少なかったでしょう。そういう場所をつくってほしいという地元の方の声に後押しされて始めたんです」と福井さん。山元夢ファームでは、ヒツジやヤギ、ポニーなどの動物たちがいます。「牧場

ここに注目!
NOW IS. EYE'S

「千年希望の丘」には、沿岸約10kmに6つの公園と丘、慰霊碑が整備されています。公園内には被災直後のまま保存された民家の土台や標識も。時と共に目にできなくなった当時の風景を感じられます。



「たのしい！子どもとまた来たいですね」とMEGUMIさん。

「千年希望の丘。津波で人が住めなくなった土地を活用したメモリアル公園です。「ああ、これがあればずっと忘れられないです」とMEGUMIさん。「今日はいろんな話を聞いてよかったです。皆さんもぜひ、宮城に足を運んでほしい。ここでハツラツと生きている人たちの話をゆっくり聞いて、いろんなことを感じられたら、こんな実りのあることはないと思います。」



地元のイチゴ農家のイチゴをふんだんに使った「山元夢ファーム」の名物・イチゴミルク。

check! 01

情報の受け取り手の「認知」を高める教育を



左は、大学の教育者向けに執筆した「大学の授業を運営するために一認知心理学者からの提案」。心理学を用いて、いかに学習者の理解度を上げるかを記している。右は、幅広い分野における心理学を解説した共著「心理学の神話をめぐって 信じる心と見抜く心」。

人間の「心理」を
防災に應用する

学校の防災教育はもちろんですが、邑本教授は「家庭内での伝承が、かなり強い力をもっていると考えています。社会的に家庭内での防災教育が広がればいいですね」と。また、避難訓練の有用性について「体を動かす知識と事実として知っている知識は違います。何回も、そしてパターンも変えて、自然にそして柔軟に動けるようにすることが大切です。また、人間は場所が変わると思いがしにくくなるので、現場でやるのが大事です」と話します。

で語り部さんの話を聞かせる活動を続けています。被災地で話を聞くと学生の反応がまったく違ったそう。「現場で聞くリアリティが大事なんです。語り部のみなさんには、爪痕が見えるところで雰囲気を感じてもらいたい。ご自身の気持ちを伝えてほしいです。事実も大事ですが、人間は共感することで話に入り込み、その時の感情は記憶に残るんです」。心理学を用いて人々の防災意識を高め、少しでも被害を少なくするために邑本教授の研究はまだ続きます。

東北大学災害科学国際研究所。ここで、認知心理学を専門とし、災害認知科学研究を行っているのが、邑本俊亮教授です。

認知心理学は、人間が「認識する」「理解する」「判断する」など、頭の中で行っていることにどんな特徴があるのかを研究する分野。心理学はとても汎用性が高く、例

えば緊急地震速報などにも応用されています。邑本教授は「どんな音が人間にとって不快か、恐怖に思っか。どのくらい怖いか、どんな気持ちになるかを推察するのが、心理学の得意としているところなんです」と話します。

しかしながら、情報の受け取り手の認知が低いと、せっかくの情報も

活かされません。邑本教授は「災害時の避難指示などは、聞いても自分のこととして感じないと避難が遅れてしまうんです。情報を出す側は『こんなやり方でやれば...』と一生懸命なのですが、受け止める側が変わらないと。そのためには、事前の教育が必要。私の今の関心事も防災教育なんです」と教えてくれました。

check! 02

人間の「経験」と「感情」を活かして、
防災力アップ



名取市間上地区で、語り部の話を聞くゼミ生たちの様子。

NOW IS.
防災

BOSAI FRONT LINE
7.0.1.1

PROFILE

むらもと としあき
邑本 俊亮 教授



東北大学教授。災害科学国際研究所災害認知科学研究分野、大学院情報科学研究科コミュニケーション心理学講座担当。北海道大学文学部行動科学科卒業、同大学大学院にて行動科学博士。専門は認知心理学、教育心理学。

Vol.2

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 「みやぎ・復興の歩み8」パネルを作成しました！
防災・復興関連のイベントなどにご活用ください

東日本大震災から8年が経過した宮城の復興の様子や、復興に向けた取り組みを行う方々をまとめた冊子「みやぎ・復興の歩み8」のパネルを作成しました。震災復興関連のイベントなどへの貸出しを無料で行っていきます(送料のみ自己負担)。

- 貸出しするパネルの内容
 - ①パネルのサイズ：A1サイズ、A2サイズ
 - ②パネルの枚数：各32枚(16枚/箱)
 - ※特定のパネルのみの貸出しも可能です
- 貸出料および送料
 - 貸出しは無料です。ただし、往復送料は利用者の負担とします。(当課からの発送は宅配便で着払い)



◎県震災復興推進課 ☎022-211-2408 [みやぎ復興情報ポータルサイト](http://www.fukkomiyagi.jp) で検索

02 応急仮設住宅の
供与期間延長について

応急仮設住宅(プレハブ・民間賃貸借上げ住宅など)にお住まいの方のうち、下記の要件に該当する方の供与期間を、最長で令和3年3月31日まで延長する手続きを進めています。延長を希望する方は、届け出が必要です。被災時にお住まいの対象市町からの今後の案内をご確認ください。

- 対象市町
 - 石巻市、気仙沼市、名取市、東松島市、女川町
- 要件
 - 災害公営住宅への入居や防災集団移転など公共事業による自宅の再建は決まっているが、工期などの関係から供与期間内に仮設住宅を退去できない方

◎県震災援護室 ☎022-211-3257

MEDIA INFORMATION



みやぎ復興情報ポータルサイトは
こちらから！



<https://www.fukkomiyagi.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで！

ブログピックアップ

さまざまな視点から
宮城の「いま」を発信

「NOW IS.復興レポート」では、さまざまな形で復興情報をお届けしています。より多くの方に宮城の「いま」を発信するために、宮城県出身の著名人によるブログも掲載しています。岩田華怜さんのブログをはじめ、今年は新たにSAMURAI JAPAN PROJECTのRakeさんと黒羽麻璃央さんも登場する予定です。



岩田華怜

仙台市出身の女優、岩田華怜さん。被災地の「いま」を伝えたいと、被災地を巡り自ら撮影。「写真」に想いを込めて発信しています。



SAMURAI JAPAN PROJECT

NOW IS.Vol.37号に登場したSAMURAI JAPAN PROJECTのRakeさん。宮城県沿岸部を応援する企画を展開する予定です。



黒羽麻璃央

映画やドラマ、舞台上で活躍している俳優の黒羽麻璃央さんは、お取り寄せできる被災沿岸地区の「おいしい」を発信していきます。

「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

●いまを発信！復興みやぎ



SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地の「いま」を発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS.メールマガジン

NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。

NOW IS.メールマガジン で検索して登録!

取材
こぼれ話
Voice
from
STAFF

宮城の「風習」が、世界に羽ばたく

「ゼロから立ち上げる」という共通の経験を持つ、タレントのMEGUMIさんと、WATALISの引地恵さん。とても盛り上がった対談でした。WATALISのFUGUROは、亶理町のちょっとした風習をきっかけに生まれた商品です。それが今や、ギフトや記念品として世界に知られるようになりました。遠い昔、亶理で最初にこの袋を考え出した人は、この「未来」を見たようなふうを感じるのでしょうか。想像すると、不思議な気がしますね。



2016年8月、宮城県知事が海外を表彰訪問した際のおみやげにも選ばれました。

みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や復興の道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。
この地で生きる人々の想いととも、世界に発信していきます。



FILE
No. 2

WATALISの「FUGURO」

株式会社WATALIS
代表取締役
ひまち めぐみ
引地 恵さん



「FUGURO」を制作しているWATALISは、2013年に一般社団法人としてスタートし、2015年に株式会社として40〜60代の女性を10人ほど雇用し、縫製を行っています。
コミュニティ支援の取り組みも継続して行っています。「街なかで気軽に集まれる場を」と、2016年にはギャラリーを兼ねたカフェ「中町カフェ」をオープンしました。

地元の女性が手作り。
縁をつなぐ巾着袋。
古い着物の生地を使い、亘理町に住む女性たちが手作りしている巾着袋の「FUGURO」。「お礼やお祝いの品は、着物などの生地で作った袋に入れて持っていく」という亘理エリアの古い風習が土台となって生まれた商品ですが、最近では、モダンな巾着袋以外にも、ワインのボトルケースや髪留め、キーマスコット、ティディヘアなどさまざまな商品が生まれています。
「FUGURO」を制作しているWATALISは、2013年に一般社団法人としてスタートし、2015年に株式会社として当初は、なりわいを失ったお母さんたちが、コミュニティの維持も兼ねて、おしゃべりしながら手作りしていましたが、現在は、社員やパートとして40〜60代の女性を10人ほど雇用し、縫製を行っています。

NOW IS. 38

発行：2019年6月11日 宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel: 022-211-2408 Fax: 022-211-2493

「復興情報発信プロジェクト NOW IS.」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

 宮城県
Miyagi Prefectural Government